

奈之良

Nai Zhi Liang

第2期

大和郡山篇
中文简体版

奈 良

の

良 所



① P4-5 金鱼游动着的城下町

金魚が泳ぐ城下町

② P6-7 “游动的图鉴” 访问郡山金鱼资料馆

泳ぐ図鑑・郡山金魚資料館を訪ねて

③ P8-9 金鱼的天堂 在郡山体验捞金鱼♪

金魚天国郡山で金魚すくい体験

④ P10-11 在町屋体验靛蓝印染

町屋で藍染め体験





① 郡山城址
郡山城跡



③ 捞金鱼道场 小竹屋
金魚すくい道場「こちくや」



② 郡山金魚資料館
郡山金魚資料館



④ 箱本館 紺屋
箱本館紺屋

“金鱼游动着的城下町”

大和郡山市

「金魚が泳ぐ城下町」

大和郡山市
Mouloud · Hammadou

大和郡山是郡山城的城下町（城下市镇），12世纪建成，发展成为奈良县的主要城下町之一。郡山古城樱花烂漫，被选为日本樱花名所100，每年4月份第一周开设“古城祭典”，游客如织，纷至沓来。



古城祭典与赏花

お城祭りとお花見

我游览大和郡山是在“古城祭典”活动结束、大和郡山恢复平静后的4月中旬。一出近铁郡山站就已经来到了郡山城的城下町。这里没有繁华，也并不热闹，但是飘荡着历史古城的寂静感和平静安宁的气息。

大和郡山，每走一步，处处皆景，各有不同。既有古代民房连绵的道路，又有小运河流淌的街道。这来源于安

土桃山时代（16世纪）的郡山城主—丰田秀长的“箱本制度”。

秀长为了保护工商业，将同业者聚集在同一街道，给每个街道颁发特许状。“小运河”据说是用来染布的，位于染布商居住的紺屋町（染布商的街道）。这个制度也成为大和郡山各个町名称的由来。在大和郡山，住户的职业原封不动地体现在町的名称上。比如说，大阪府堺市的商人曾经居住的聚集地取名为堺町，豆腐商人居住的町取名为豆腐町。是不是很有趣？每条街道都展现不同的气氛，这还有一个原因。那就是各个时代的建筑风格均有留存。郡山城址自不必说，此外还可以看到以两层建筑为特色的江户时期（1603-1868年）的町屋、建于明治时期（1868年-1912年）及大正时期（1912年-1926年）的西洋建筑、以及留有昭和时期（1926年-1989年）余韵的商店街，可以穿越到日本各个时代。



此外，

郡山城址现在仅留存了望楼和大门，但可步行至一个叫天守台的地方，推荐您观光时可以去那里小憩。

另外，观赏时如果和自己国家的城堡、要塞城镇作比较的话，也别有一番乐趣。我的国家法国有一个名叫卡尔卡松的要塞城市，现在已经加入了世界文化

遗产。在要塞城堡中发展起来的卡尔卡松，与以城镇为中心发展起来的郡山相比较的话，我认为二者在城镇扩展方式与发展过程上是不同的。



江户时代的望火楼

江戸時代の火の見やぐら

我刚才讲述了大和郡山城镇的历史魅力，其实大和郡山城镇的魅力不仅限于历史。

纵横交错的江戸情趣的街道
道が迷いやすい江戸らしい町並み



从明治时期到现在，在金鱼繁殖
兴盛的大和郡山，养殖池和小河流自

不必说可以看到金鱼，就连下水道井
盖和店铺的招牌，随处都可以看到大
量的金鱼在“游动”着。只要用心探
索，看看城镇中哪些地方金鱼在游动，
就一定会更多、更新的发现在等着
你。对于好奇心旺盛的孩子们来说，

比起历史的话题，寻找金鱼可能会更
富有乐趣。

漫步于拥有各个时代风貌的城下
町，请享受一家人找寻金鱼的乐趣吧。



金鱼也在这儿游动啊!!! (左图是长凳上的金鱼图案)

金魚はこんなところにもいます!!! (写真はベンチ)

大和郡山は郡山城の城下町です。12
世紀の築城以来、奈良県の主要な城下
町のひとつとして発展してきました。郡山城
跡に咲く桜は大変きれいで、日本の桜の名
所 100 選にも選ばれています。例年 4 月
の第 1 週には「お城まつり」が催され、たく
さんの花見客が訪れます。

わたしが大和郡山を訪れたのは、お城ま
つりが終わり、大和郡山が静けさを取り戻
した 4 月中旬のことでした。近鉄郡山駅を
一歩出ると、そこにはもう、郡山城の城下



大正时期的西洋建筑

大正時代に建てられた洋風建築

町が広がります。華やかさにぎやかさはあ
りませんが、歴史のある町の落ち着きと静け
さが漂っていました。大和郡山は、通りごと

に町なみががらりと変わる町です。古い町
屋が続く通りもありますし、小さな運河が走
っている通りもあります。これは、安土・桃山
時代（16 世紀）の郡山城主、豊臣秀
長の「箱本制度」に由来します。秀長は商
工業保護の政策として、同業者を町ごとに
集め、町々に特許状を与えて保護しました。
「小さな運河」は染物商が住んでいた紺屋
町（染め物商の町）にあったもので、染め
物に使われていたそうです。この制度は大
和郡山の町の名前の由来にもなっており、
住人の職業がそのまま町の名前になってい
ます。たとえば、今の大阪府堺市の商人が
住んでいた町は堺町、豆腐商の商人が住
んでいた町は豆腐町です。おもしろいす
ね。

通りごとに町なみが変わると感じる理由は
もう一つありました。それはいろいろな時代
の建物が混在して残っていたことです。郡
山城跡はもちろん、低い 2 階建てが特徴
的な江戸時代の町屋や明治・大正時代
に建てられた洋風建築、昭和時代の名残
を残す商店街などがあり、日本のいろんな
時代へタイムスリップすることができます。な
お、郡山城跡は近年、櫓や門を再建され
ており、天守台のあった場所なども歩くこ
とができます。

あるいは、みなさんの国にある城や要塞
都市の町なみと比較して観光するのも、面
白いかもかもしれません。わたしの出身国フラン
スには世界遺産になっているカルカソンヌと
いう要塞都市があります。要塞の壁の中で

町が発展したとカルカソンヌと城を中心と
して町が発展した大和郡山では、町の広
がり方や発展過程が異なるように思いま
した。

大和郡山の町の歴史的な魅力をお話し
してきましたが、大和郡山の町の魅力は歴
史だけではなくありません。明治時代以来、現
在でも金魚の養殖が盛んな大和郡山では、
養殖池や小川はもちろんのこと、マンホール
のふたやお店の看板など、町中のいたるところで、
金魚がたくさん“泳いで”います。町を
探検してみれば、どんなところに金魚が“泳
いで”いるか、きっとたくさんの発見が待っ
ていることでしょう。好奇心旺盛なお子さん
には歴史の話よりも金魚探しの方が面白
いかもかもしれませんね。

さまざまな時代の面影を残す城下町を
散歩しながら、家族で金魚探しを楽しんで
みてください。



“游动的图鉴” 访问郡山金鱼资料馆 开运的治愈空间

张敏



泳ぐ凶鑑・郡山金魚資料館を訪ねて

—開運をもたらす 癒やしの空間—

奈良县大和郡山市是日本的金鱼故乡，这里的金鱼养殖历史悠久，可追溯到1724年。据传，为了观赏的目的，郡山城主柳泽吉里的家臣横田又兵卫将中国的金鱼带到了日本。金鱼养殖在幕府末期是下级武士的副业，到了明治初期逐渐成为农民的副业。现在，大和郡山市的金鱼养殖户大约有70家，年产量约为9000万匹，是日本数一数二的金鱼产地。该地拥有悠久的养殖金鱼历史，这是其受游客欢迎的原因之一，为了发现更多的魅力，我们在金鱼的产卵期——4月份参观了郡山金鱼资料馆。

出近铁郡山站后向南走，可见古色古香的日本住宅，亘古未变的街道充溢古老的氛围，然后景色焕然一新，映入眼帘的便是金鱼养鱼场了。沿着环绕养殖池的狭窄道路，我们看见了郡山金鱼资料馆的白色招牌。名叫“大和锦鱼园”金鱼养殖场的设立者嶋田正治，为了宣传金鱼的历史和文化自费创立了这家金鱼资料馆。入馆费免费。资料馆的展览室中，陈列着关于金鱼的资料、书籍和工艺品。其中有一篇关于创立者嶋田正治在中日尚未建交的上世纪50年代后半叶，如何从中国引进金鱼，历尽艰辛、呕心沥血精心培育的报告，还有一篇《夏天的景物诗—北京的金鱼》描写北京天坛附近金鱼池的报道，这让我们感

到大和郡山的金鱼和中国金鱼有着深厚的渊源，饶有趣味。



金 鱼 土 铃

土铃是一种土质的铃铛。作为民间工艺品和玩具深受喜爱，古时是一种除魔的道具。大和郡山最为流行的要数赤肤烧的金鱼土铃，刻成红色的金鱼模型，是朴素的初夏风物诗。赤肤烧的金鱼土铃是江户时代管理郡山的城主柳泽的爱物。充满神秘气息的金鱼土铃，会给您带去好运气呢。



金 鱼 锦 绘

锦绘是一种多彩印刷的木版画，属于浮世绘的一种。上面描绘着色彩绚丽的金鱼姿态，有美女、猫、儿童登场，展开如同物语般的世界画卷。

展览室旁边是具有日式风格的古朴庭院，围绕着庭院的是一圈大鱼缸，仿佛“游动的图鉴”，从原始到最新的各种金鱼，都能够观赏得到。

和兰狮子头(1)是1789年从中国经过琉球传到长崎的一款金鱼品种。当时还处于锁国状态的日本，将舶来品称为“和兰物”，由此得名。头部颇为特别，有一颗透明的球状瘤装饰，宛如欧洲贵族女性的发型一般华丽绽放。



和蘭獅子頭

樱东锦(2)的鱼鳍宛如神女的衣裳一样包裹全身，在水中飘逸摇曳，身体红白相间，给人一种活泼清爽的感觉。



桜東錦

滨锦(3)是一种与樱东锦同样身体红白相间、鱼鳞富有特色的一款金鱼。滨锦的鱼鳞是由圆圆的隆起的石灰质构成，也叫做珍珠鳞。表情可爱，温柔娇

小，让人不禁联想起宫崎骏的《悬崖上的金鱼公主》呢。



每种金鱼都是追求美丽，努力交配的结晶。观赏金鱼时，俯瞰、侧看两相宜。您是否也和我们一样深深地被反复研制的历史积淀与金鱼的深层次优美所折服呢？，除了鉴赏金鱼外，您还可以欣赏富有情趣的和风庭院。

此外，“金鱼”的发音与汉语的“金余（金钱余下来）”十分相似。在日本，金鱼的红色被认为是“驱魔”的颜色。两种寓意结合起来看，金鱼实在是一种“开运的存在”。



日本金鱼学术研究的始祖・松井佳一博士の胸像

日本の金魚、学術研究の祖・松井佳一博士の胸像

郡山金鱼资料馆

奈良县大和郡山市新木町 107

电话：0743-52-3418

近铁郡山站向南徒歩 10 分钟

饲养金鱼需要不断追求更加精炼的美，这是一门多么精彩的艺术啊。在郡山金鱼资料馆不仅能将金鱼的珍贵资料、古籍大饱眼福，而且能在赏玩民间艺术品的同时，欣赏如艺术品般绚烂的金鱼，领略富有情趣的日本庭院，可谓一举多得啊。

日本の金魚の故郷と言われる奈良県大和郡山市は、その金魚養殖の歴史が古く、1724 年まで遡ります。郡山城主柳沢吉里の家臣横田又兵衛が、中国金魚を觀賞用に持ってきたのが始まりと伝えられています。現在、大和郡山市の養殖業者は、およそ 70 軒で、年間およそ 9000 万匹の金魚を育てている、日本有数の金魚の産地です。古い歴史を持つのがその人気の理由の一つですが、更なる奥深い魅力を見つけようと、金魚の産卵時期である 4 月中旬頃、私たちは郡山金魚資料館に訪れました。

近鉄郡山駅から、南の方へ歩いていくと、古めかしく優雅な家屋が見られ、昔から変わらない古い街並みの雰囲気が漂いますが、景色はすぐに一変し、金魚の養殖池が一面に広がります。養殖池に囲まれた細い道を歩いて行くと、郡山金魚資料館の白い看板が見えてきます。この資料館は、金魚の養殖業を営む「やまと錦魚園」の設立者、嶋田正治氏が、金魚の歴史や文化をより多くの人々に知ってもらえるように私財を投じて創設したそうです。公的な施設ではありませんが、入場料は無料です。資料館の展示室には、金魚に関する資料や書籍、民芸品が展示されています。嶋田正治氏が 1950 年代後半に、当時国交がなかった中国から金魚を輸入し繁殖に努力してきた経緯に関する記事や、北京の天壇付近の金魚池の風景を取り上げた記事は、大和郡山の金魚と中国の金魚の

深いゆかりを感じさせ、大変興味深いものでした。

金魚土鈴：土鈴は土製の鈴です。民芸品やおもちゃとして親しまれ、古くは魔除けの道具だったと考えられています。大和郡山の定番である赤膚焼の土鈴は、赤い金魚の形が模され、素朴な初夏の風物詩となっています。赤膚焼きの金魚土鈴は、江戸時代に郡山を治めた、柳沢氏の愛玩でもあったそうです。金魚土鈴は、神秘的な雰囲気吹き込まれ、幸運をもたらすでしょう。金魚錦絵：錦絵は多色刷りの木版画で、浮世絵の一種です。見目麗しい金魚の姿が鮮やかに描かれています。美しい女性、猫、子どもが登場し、物語のような世界観が展開されています。

展示室の側には、和風の素朴な庭園を囲むように大きな水槽がいくつも並べられ、まるで「泳ぐ凶鑑」のように、おなじみの小さな赤い金魚から珍しい種類のものまで、たくさんの種類の金魚を実際に鑑賞することができます。

和蘭獅子頭（オランダシシガシラ）（1）

は 1789 年頃に中国から琉球を経て長崎に渡来した金魚です。当時、鎖国状態だった日本では外国からの渡来品を「オランダ物」と呼んでいたことから、そう呼ばれるようになったそうです。こぶのある特徴的な頭は、まるで透明感のある玉に装飾された、ヨーロッパの貴族婦人の髪型のようなです。桜東錦（サクラアズマニシキ）（2）は、まるで天女の衣のよう

に揺れるヒレと紅白のうろこの模様が特徴です。紅白の模様なので、明るくすっきりした印象を受けます。浜錦（ハマニシキ）（3）は、桜東錦と同じように紅白の色をしていますが、うろこに特徴のある金魚です。浜錦のうろこは丸く盛り上がった石灰質でできており、パール（真珠）うろこと呼ばれているそうです。愛嬌ある表情とあいまって、とても可愛い金魚です。宮崎駿監督の映画「崖の上のポニョ」を連想してしまいました。

金魚はどれも美しさを追求した交配の努力の結晶です。金魚の鑑賞は金魚の姿を上から愛（め）でること、横から愛でることもできます。より美しくより優雅な金魚を求めて、交配を重ねてきた歴史と金魚の美しさの奥深さを感じられることでしょう。また、金魚鑑賞のほか、趣のある和風庭園も楽しめます。ちなみに、「金魚（キンギョ）」の発音は中国語の「金余（キンヨ；お金が余る）」という発音に非常に類似しています。また、日本では金魚のような赤色は「厄除け」の色と考えられてきたそうです。これらのことを合わせて考えると、金魚は広く「縁起の良い存在」なのだと思います。より洗練された美しさを追求して、金魚を育てていくことはどれほど素晴らしく、芸術的なことでしょうか。郡山金魚資料館は、金魚にまつわる貴重な資料や書籍、民芸品はもちろん、まるで芸術品のような美しい金魚と趣のある日本の庭が同じ空間で感じられる場所でした。



捞金鱼道场的场景

金魚すくい道場の風景



“渔网（POYI）的独白”作为土特产
大有人气！

ポイの独り言はお土産として大人気！

捞金鱼的技巧

金魚の上手なすくい方

- ①渔网要斜着进入水中，移动时要保持水平！（上下移动会破网）
ポイを水中に入れる時は斜めに、水中で動かすときは水平に！（上下移動だと破れやすい）
- ②要从鱼头或鱼腹的下方捞起。
金魚をすくう時は頭またはお腹の下から。
- ③金鱼逃跑时，不要在水中追赶。
金魚が逃げたら水中で追いかけないこと。
- ④不要将渔网垂直抬起，而要斜着抬起。
ポイは真上にあげないで、斜めにあげること。
- ⑤注意先接触金鱼身体的一部分，然后将金鱼整个捞起。
金魚の身体の一部が乗っているように心がける。

★最主要的是保持**喜欢捞金鱼的热情！**
なによりも**金魚すくいが大好きになること！**



日本的夏季祭典中，经常会看到穿着浴衣享受捞金鱼乐趣的孩子和大人。祭典和捞金鱼对于日本人来说是夏季的风物诗，对于游客来说是跃跃欲试、千载难逢的趣味游戏。今天我们走访了可在全年体验捞金鱼的名店——捞金鱼道场·小竹屋（Kochikuya）。

“捞金鱼道场·小竹屋”位于距离近铁郡山站步行10分钟左右的紺屋町。沿着富有风情的运河，向东信步走去，就会看到一家用红布做成的巨大金鱼装饰的建筑，那就是“捞金鱼道场·小竹屋”。

走进店里，以金鱼为模型的工艺纪念品热情地迎接着游客。礼品店同时也是“捞金鱼道场·小竹屋”的前台，与金鱼相关的礼品琳琅满目，从金鱼花纹手绢、挎包、茶盘等日用品，到风铃、蚊香、白铁皮金鱼玩具等令人难忘的礼品，种类繁多。最有人气的是渔网（捞金鱼时使用的纸质渔网），特别之处是社长亲笔题词的“渔网（POYI）的独白”字样。探寻充满社长幽默感的“渔网的独白”，也别有一番情趣。店里还反复播放着“金鱼、金鱼～♪”欢快的音乐。这里简直就是充满了金鱼的世界。

金鱼的天堂

在郡山体验捞金鱼♪

金魚天国郡山で金魚すくい体験♪

文 閔 貞



在店的前台购买渔网，往里走就来到捞金鱼的道场了。在这里我和游动着金鱼们见面了。几个蓝色水槽并排摆放，红色和黑色的可爱金鱼在欢快地畅游。不同的水槽里，金鱼游动的速度和种类有所不同，捞金鱼的难度也会有差别。

我是初次挑战捞金鱼，所以选择了较容易的水槽。事先让店员教给了我捞金鱼的技巧*，但是实际操作起来并没有想象得那么容易。在追逐四处逃窜的金鱼时，第一个渔网立刻就破了。

但是也不能空手而归啊。我又买了第二个渔网再次挑战。渔网在水中若是动弹的话会立马破碎，所以第二次我按兵不动，打算当金鱼从渔网上通过时一举捕获。果不其然，金鱼通过渔网上方的瞬间，将网的边缘斜着捞就成功啦！我终于捞起来了一条可爱的金鱼。用这个方法，我接着又捞起了一条又一条的金鱼，共计8条！虽然是初次体验，但是大获全胜。首次捞金鱼，我不知不觉就着了迷，忘记了时间。

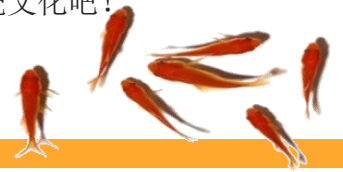


在道场的墙壁上，挂着一幅写有门下生（门第）名字的招牌，段位从初段到8段。据说有一种看谁在1分钟内捞起的金鱼最多的比赛，然后进行排位，这里可谓捞金鱼的名誉殿堂之地。门下生中除了有名的艺人和偶像，也有从泰国、香港慕名而来的外国

游客。在异国留下自己的名字有着特别的意义，请在拜访道场时也一定来这个殿堂挑战一下吧。全国的捞金鱼名人相互争夺排位记录，会场里有很多游客及来加油的人，热闹非凡。这些捞金鱼的水槽是为了让比赛更加顺畅而设置的，可在任何时候练习，这就是道场形成的最初模式。今年

第20届大赛在即，选手们也在道场积极地练习着。

大家来到大和郡山时，不妨来“捞金鱼道场・小竹屋”亲自感受一下与可爱的金鱼相碰触的日本传统文化吧！



日本の夏祭りでは浴衣姿で金魚すくいを楽しむ子供や大人をよく見かけます。お祭りと金魚すくいは日本人にとって夏の風物詩であり、

日本を訪れる観光客にとっては一度は体験してみたい面白い遊びです。今日はその金魚すくいが年中体験できる「金魚すくい道場 こちくや」を訪れてみました。

「金魚すくい道場 こちくや」は近鉄郡山駅から徒歩10分ほどの場所に位置する紺屋町（こんやちよう）にあります。風情のある運河に沿って東の方へ歩いていくと、赤い布でできた巨大な金魚が飾ってある建物が見えてきます。そこが「金魚すくい道場 こちくや」です。

お店に入ると金魚をモチーフにしたたくさんのグッズが訪問者を出迎えてくれます。「金魚すくい道場 こちくや」の受付は「おみやげ処」を兼ねています。店内には金魚の模様が入ったハンカチやバック、コースターなどの実用品から風鈴や蚊遣器、ブリキの金魚のおもちゃなど懐かしいものまで、金魚に関係するありとあらゆるおみやげが所狭しと並んでいました。ポイ（金魚すくいで使用する紙製の網）に社長直筆のメッセージを書いた「ポイの独り言」は特に人気のあるおみやげだそうです。社長のユーモアあふれる「ポイの独り言」を探しに行くのも訪れる楽しみの一つかもしれません。店内では「キンギョ、キ

ンギョ〜♪」という楽しい音楽も繰り返し流されています。まさに金魚だらけの世界です。

店内の受付でポイを購入し、奥へ進むといよいよ金魚すくい道場です。ここで本物の金魚たちに会うことができました。いくつもある青い水槽の中では、赤色や黒色のかわいい金魚が元気に泳いでいます。水槽によって金魚の速さや種類が違うので、金魚すくいの難しさが変わるそうです。

金魚すくいが初めてだったわたしは易しい水槽で挑戦してみました。上手にすくう方法*を事前に教えてもらいましたが、中々思い通りにはいきません。1枚目のポイは、あちらこちらに逃げる金魚を追いかけているうちにすぐに破れてしまいました。

1匹もすくえずに帰るわけにはいきません。2枚目のポイを買って再挑戦しました。水中でポイを動かすとすぐに破れてしまうことを学んだので、2枚目のポイはあまり動かさずに金魚がポイの上を通るのを待つ作戦をとりました。ポイの上を金魚が通った瞬間、ふちを利用して斜めにすくいあげると・・・成功です！1匹のかわいい金魚をすくうことができました！この方法で次々と金魚をすくいあげ、2枚目のポイでは、計8匹の金魚をすくうことができました！初心者にしてはよくできたほうでしょうか？はじめての金魚すくいは、思わず時間を忘れてしまうほど熱中してしまうものでした。

道場には、門下生の名前が書かれた板が掲示されていました。段位は初段から8段まであります。1分間にすくえる金魚の数で段位が昇格していく試験があるそうです。まさに金魚すくいの名誉の殿堂と呼べるような場所ですね。門下生の中には有名な芸能人やアイドルのほか、タイや香港から来た外国人観光客の方の名前もありました。異国の地で自分の名前を残すことはとてもいい記念になると思いますので、道場を訪れた際は、観光客の方もぜひ殿堂入りに挑戦してみてください。

金魚の特産地として有名な大和郡山市では、毎年8月に全国金魚すくい選手権大会が開催されています。全国から集まった金魚すくいの名人たちが記録を競い合い、会場は観光客や応援しに来た人々で大変にぎわいます。道場は大会を盛り上げるために、いつでも金魚すくいの練習ができるように水槽を設置したのがその始まりだそうです。今年で20回を迎える大会を控え、出場予定者の方も道場で練習に励んでいます。

大和郡山に来られるみなさんも「金魚すくい道場 こちくや」に立ち寄り、可愛い金魚と触れ合える日本の伝統文化をぜひ体感してみてください。

捞金鱼道场・小竹屋

奈良县大和郡山市紺屋町 23-1
TEL 0743-55-7770

在町屋 体验靛蓝印染

町屋で藍染体験

Jennifer · Kim

提起大和郡山市，大家可能首先会想到金鱼吧。没错，在街灯、道路上的标识、下水道井盖、以及出近铁郡山站后引入眼帘的商店街招牌上，城中随处可见“游动”的金鱼。可是，您可能不知道，在大和郡山还能体验日本传统的靛蓝染布工艺。

从近铁郡山站向东徒步 10 分钟，就会看到一个名叫“紺屋町”的街道。“紺屋”就是染坊，以前这个街道上大约聚集着 20 家染坊，所以“紺屋町”由此得名。紺町屋至今还流淌着手工艺人为染布而专门控制的小河。

这次，我们走访了一个名叫箱本馆“紺屋”的染坊，这里同样可以感受得到大和郡山市的象征——金鱼带来的乐趣，同时当然还尽情体验了印染手帕的工艺。箱本馆“紺屋”创始于 17 世纪，是一家以印染为生的町屋（城镇的商家）改装而成的染坊，距离捞金鱼的道场“小竹屋”（请参照第 8-9 页）很近。走进“紺屋”后，可以看见许多以金鱼为主题的工艺品和美术品，再往里走就来到了印染的工房。在这里，从简单的手帕到包包、再到复杂的披肩，您可以体验到印染各式各样的物品。

首先，我们就印染的历史询问了手工艺者天野小姐。据她讲，靛蓝颜料作为民众所熟知的染料，从古时就用作印染包袱皮和布帘。19 世纪以后，随着化学染料技术的发展，生产靛蓝原料的从业者越来越少，靛蓝成为高级的染料，最近有研究表明靛蓝还具有杀菌和除臭的



功效，再次被世人瞩目，得以重新评价。

听了天野小姐的介绍，我开始设计手帕的图案。凭借想象力，就能设计出世界上独一无二的手帕哦。用石头、筷子、橡皮圈、胶卷盒等身边随处可见的物品就可做出防染部分，无需多加考量，我像孩子一样随意使用道具开始了设计。

在工房外穿戴围裙、橡胶长筒靴、橡胶手套，经过一番全副武装后，接下来我们开始染手帕。先将手帕浸水后拧干，然后渗入染缸的染液中缓慢地摆动手帕。



Q: 染料中是什么液体?

这是为靛蓝印染用的染料，由蓝靛叶、石灰、酒、小麦壳等混合而成。加入灰水，经过缓慢发酵后大约两周后制成。保存时间根据制作方法有所不同，大约可存放两个月至十个月。染料就如同生物一般，会仔细地调节内部状态的好坏。

首先将手帕中的水分使劲地挤掉，然后浸入缸中缓慢地摆动就不会给生物染料增加负担。工房中六个水缸周围有许多时钟，印染时请看着钟表测算浸染的时间。

有趣的是，手帕浸染 1 分钟从缸中取出后会呈现绿色，而随着氧化的推进，逐渐会变成蓝色。浸染后要用水洗。

※小贴士：随喜好将染布印染到合适的程度—>然后水洗，重复这个顺序。中途，取出几个夹在手帕里的道具，可营造浓淡的层次感，渲染出水滴的图案。达到自己喜欢的浓度后，将手帕浸泡在工房外的醋缸里 3 分钟，最后再次用干净的水清洗，熨烫待干后就完成了！

在加拿大的小学里可以体验到叫做“扎染”的工艺，与日本的靛蓝印染不同，扎染是采用许多鲜亮而夸张的色彩的。体验靛蓝印染之前，我想象可能跟扎染差不多吧，但是向专家请教了靛蓝印染工艺，

通过直接接触、感受靛蓝的沉静与静谧感，又亲自动手体验传统印染技法后，我才知道这与孩童时代玩过的扎染完全不同。

发挥自由想象力，亲自动手制

大和郡山市といえば、まず金魚を思い浮かべる方が多いと思いますが、大和郡山では日本に古くから伝わる藍染に触れることもできます。

近鉄郡山駅から徒歩で10分ほど東へ向かうと、紺屋町という町があります。「紺屋」は染め物商のことで、昔は染め物商のお店が20軒ほど並んでいたことから、紺屋町と呼ばれるようになったそうです。紺屋町の中心には、職人たちが染め物に利用するために造った小川が今も残っています。

今回、藍と大和郡山市のシンボルである金魚を楽しめる箱本館「紺屋」にお邪魔して、ハンカチの藍染めを体験してきました。箱本館「紺屋」は17世紀から藍染めを生業（なりわい）としてきた町屋を改装した建物で、金魚すくい道場「こちくや」（p8～9参照）のすぐ近くにありま。建物の中に入ると、金魚を取り入れたデザインの工芸品や美術品が展示されていて、奥には工房があります。工房では、ハンカチなど簡単なものからカバンやストールなど難しいものまで様々なグッズの藍染めを体験できます。

はじめに、職人の天野さんから藍染めの歴史について簡単に説明していただきました。藍染めは広く庶民になじみのある染料として、昔から風呂敷やのれんに使われていたそうです。19世紀以降、化学染料の技術が発展するにつれて、藍染めの染料の原材料を造る人が減少し、藍は高級染料になりましたが、最近では藍の持つ殺菌や消臭などの効果が知られるようになり、藍染めが再評価されているようです。

作传统工艺品，这不仅对于日本人，而且对于外国人来说都是一种富有魅力的有趣体验。请一定来箱本馆“紺屋”来挑战一下吧！

※关于预约信息：

説明後の藍染め体験は、ハンカチの柄のデザインから始まりました。自分の想像力を頼りに、世界に1枚だけのハンカチをデザインしていきます。石や割り箸、輪ゴム、フィルムケースなど身近にある道具を使って、染めない部分を造っていきます。わたしはあまり考えすぎず、こどものように思うまま道具を使ってデザインしました。

次のステップは、ハンカチを藍に浸す作業です。工房の外に用意されているエプロン、ゴム長靴、ゴム手袋を身につけて、一旦ハンカチを水に浸して絞った後、甕の中にある染料の液に押し込んでゆっくり動かしながら浸します。

Q: 甕にある液は何ですか？

藍染めの染料です。藍の葉や石灰、お酒、小麦の殻などが混ぜられています。灰汁を加えながら徐々に発酵させ、2週間ぐらいでできあがります。保存期間は、使い方によって異なりますが、2ヵ月～10ヵ月です。藍の染料は生き物みたいなものなので、調子の善し悪しをこまめにチェックしています。

はじめにハンカチに浸した水をしっかり絞り、甕の中をゆっくり動かしながら浸すことも生き物である染料に負担をかけないためのようです。工房にある6つの甕の回りには時計がたくさんおいてありますので、染める時にしっかり時間を計って浸してください。

ハンカチを1分間浸したあとに甕から取り出すと緑色をしています。酸化によりだんだん青色へ色が変わっていくのが面白いポイントです。浸した後は、水洗いします。

※好みの濃さになるまで染料に浸す→水洗いする手順を繰り返します。途中でハン

<http://www.hakomoto.com/english/english.htm>

※予約者優先体験印染，建议电话预约后前往。

カチに挟んだ道具をいくつか取ることで濃淡の変化が出たり、水玉模様を描くことができたりします。



好みの濃さになったら、工房の外にある酢のシンクの中に3分間入れて、最後にもう一度きれいな水で洗って、アイロン

で乾かせば完成です！

カナダの小学校では「タイダイ」という絞り染めの体験をしますが、日本の藍染と違って、明るい派手な色をたくさん使います。体験前は、タイダイに似たものを想像していましたが、藍染めに関するお話を聞いたり、藍の落ち着いた色や美しさに触れたり、伝統的な染め方の技法を体験して、子供の遊びとは全く異なる体験に感じられました。

自由な想像力で伝統的なお土産を自分の手で作ることは、外国人にとっても日本人にとっても魅力的でとても楽しい経験になると思います。ぜひ箱本館「紺屋」で挑戦してみてください！

※予約情報について：

<http://www.hakomoto.com/taiken/index.htm>

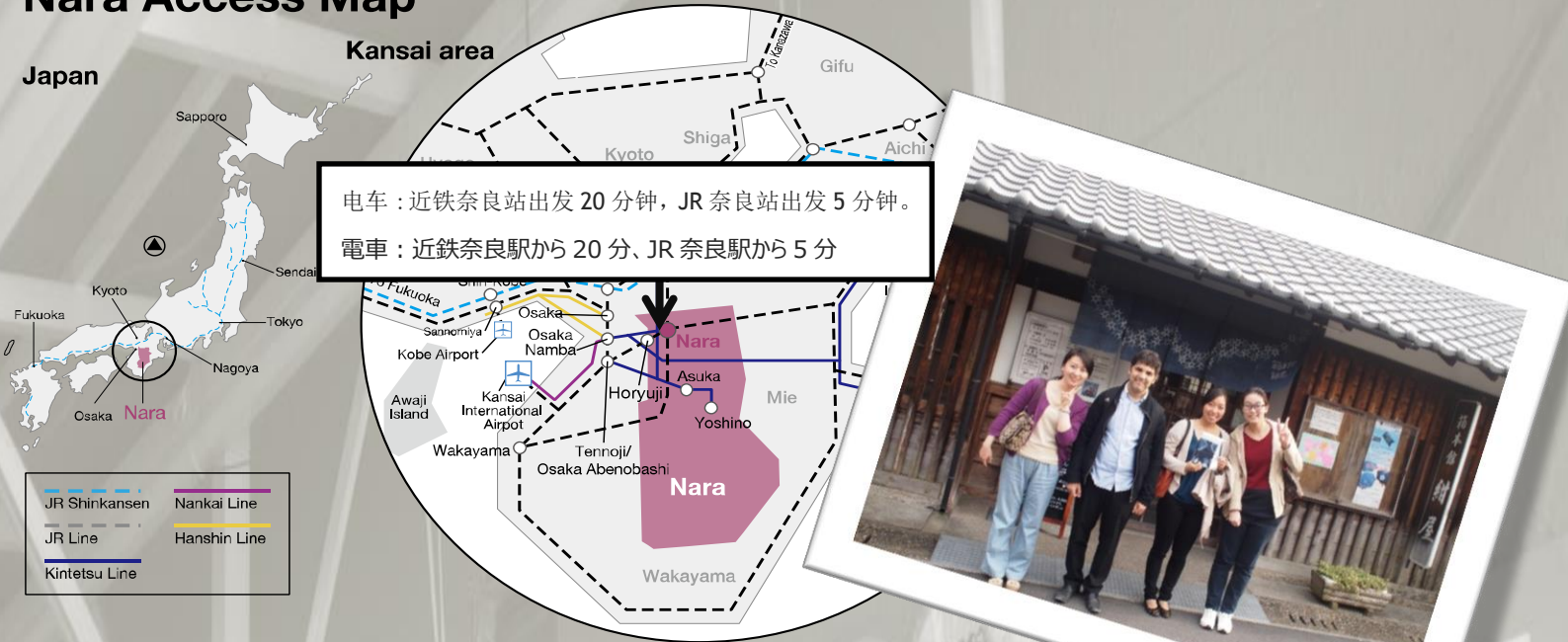
※体験は予約優先ですので、電話予約してから行くことをお勧めします。

箱本館 “紺屋”

奈良县大和郡山市紺屋町 19-1

TEL 0743-58-5531

Nara Access Map



Route Map

大家好！

我们是奈良县国际课的国际交流员，主要从事国际交流和观光业务，发挥着促进奈良县与海外交流的桥梁作用。

《奈之良》，字如其意，“奈良的好地方”。在外国人的眼中，奈良县有什么样的独特魅力呢？我们取材、撰写奈良县的魅力所在和趣事乐闻，旨在将我们眼中的奈良魅力展现给海外游客。若能够激发您对奈良的兴趣，或成为您感受奈良魅力的出发点，我们将不胜荣幸。

这次我们取材于一座金鱼游动的城市——大和郡山市。神秘的金鱼洋溢出的华美气息，与古韵街道的历史氛围形成了鲜明的对比，深深地镌刻在了我们的脑海里。

最后，谨向协助本次采访的“捞金鱼道场·小竹屋”、“金鱼资料馆”、“紺屋”的诸位大和郡山市民致以深深的谢意。

奈良县全体国际交流员

文闰贞 Jennifer・Kim Mouloud・Hammadou 张敏

こんにちは。

私たちは奈良県国際課に勤務する国際交流員です。奈良県と海外の交流を深める架け橋となるべく、日々、国際交流・観光業務に従事しています。『奈之良』は、外国人の目線で見えた奈良県魅力を外国の方に紹介するため、奈良県で見つけた魅力やおもしろいことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。今回は金魚が泳ぐ城下町、大和郡山市を取材しました。金魚という神秘的な生き物の華やかさと、歴史的な町並みのコントラストがとても印象的でした。

最後に、今回の取材にあたり御協力いただいた「こちくや」と「金鱼資料館」、「紺屋」をはじめ、大和郡山市民の方々にお礼申し上げます。

奈良県国際交流員一同 ムンユンジョン チョウビン
文 閏 貞、キム ジェニファー、ハマドゥ ムルードウ、張 敏

《奈之良》発行地：奈良县知事公事国際課 発行先：奈良县知事公事国際課

若对本刊有意见或疑问等请联系下方：

〒630-8501 奈良市登大路町 30 奈良县知事公事国際課

TEL +81-(0)742-27-8477 E-mail iad-nara@mahoroba.ne.jp